

10/24
五旗



戦争法について対話する高校生=24日、大阪市

高校生「自信持った」

大阪

戦争法に反対する高校生らのグループ「Toms SOWL West」(ティーンズ・ソウル・ウエスト)は24日、大阪市中央区で「高校生×戦争法」と題した学習会と宣伝

を行い、25人が参加しました。

講師を務めた神戸女学院大学の石川康宏教授は、立憲主義の成り立ちから始まり、憲法は自由や平和を求める世界の流れが集まったものだと言明。その上で戦後の政治は、先

力合わせ 戦争法廃止



立憲主義を取り戻そうと、高校生も参加する。24日、群馬県高崎市

的な憲法を学び生かそうとする運動と、改憲を追求する日米支配層のたたかひの歴史だと話しました。

高校生からは「高校生に何が出来るか」「これからの何をすべきか」などの率直な質問が出されました。石川氏は「若者に勇気をもっている大勢の人の運動の枠にとらわれ

ず、自由に声を上げてほしいと語りました。参加した高校生3年生は「憲法がこんなによいものだとおぼえなかった。憲法を守る」と運動してきた自分た

「民主を行い、約80人が参加しました。司会あいさつでPAGの早水孝元さんは、戦争法を強行採決された怒りを風化させないためには継続した運動が必要だと強調し「私たちには止まりませ

ていきましょう」と呼びかけました。リレートークでは医師、群馬大学の教員、子育て世代の母親、県内外の参加者などが発言。産婦人科医の白石知巳(ともみ)さんは「戦争にさらされるような軍力の中で、教育や社会保障が損なわれるような社会であってはならない。政治を変え、安保法制を無くしましよ」と訴えま

した。集会後、参加者は「賛成議員は罷免して待てよ」「野党は共闘」などとコールし市内をデモ行進しました。

「無所属」のたすきを背けた群馬県のマスコミ「コトキヤラ」くんまちゃん「人形を抱えて参加した山下仁美さん(44)前橋市は「次の選挙に向けて、考える人がどう取り込んでいくかが重要だ。県民に考える機会を与えていきたい」と話しました。

「2万人集会につながる」と呼びかけました。徳島市の美容師、高村静恵さん(35)は「安全安心の世の中で、選挙に興味を持ち続け、(安保法の)間違いを正したい」と話しました。

怒りを風化させない

群馬

群馬県高崎市で24日、青年団体のPAG(Peace Action from GUNMA)が戦争法の強行採決後初の集会と

徳島

安保関連法に反対するママの会徳島(大西さちえ代表)は23日、柳沢協二氏(元内閣官房副長官補)を招いて徳島市でトークセッションを行い、意見交換

しました。柳沢氏は、安保関連法は「憲法9条のもと、一人も殺さず、一人も戦死していない自衛隊のあり方を変えたい」と批判。

「政権の座から下ろすことが必要だ」として、野党の選挙協力の必要性を指摘し

た。学生・若者の取り組みが広がり、国会前の2万人集会につながる

と話した。